

板碑です。中央に富士山が線彫りで象られ、頂の上に直系  
○、二八メートルの日輪がバランスよく彫り込まれていま  
す。

福光の里から富士山は遥かに隔たっています。山そのも  
のを神体とする信仰の形をここに移して“浅間講”が行わ  
れたものと考えられます。

## 29 宗頤石祠

永禄四年（二五六一）芦名盛氏が岩崎城を築いたころから、  
鶴ヶ城との中間地点に“糟尾宗頤”というお医者様がいま  
した。

“宗頤”は貧富のへだてなく、城下はもちろんのこと里  
人の病の治療や、困りごとにまでも意をつくすことが多か  
ったそうです。

宗頤が郷里の糟尾村（現栃木県築野町粕尾）に去った後  
に、里人はこぞって彼の徳を慕って“神様”として祀りま  
した。

依頼、八月二十四日の祭日には五反旗の幟を立てて祀っ  
ていたといわれます。

神祀は大川端に鎮座して、氏子の安泰と平和を守る神と  
して尊崇されてきました。

宗頤の守り本尊は（高さ八五センチで徳一大師の作と伝  
う）北会津村上米塚の玉光堂に“延命地藏”として安置さ  
れています。

## 3130 愛宕 文殊祠

愛宕様は、京都愛宕山上にある旧府社です。天応元年  
（七八一）に、和氣清麻呂が光仁天皇の勅命によって、平安  
京鎮護の神として祀られたものです。

入宗に、阿部清次・星竹四郎の両氏によって建立された  
地上高一、四五メートルの“祠”が祀られています。火の  
神・火伏せの神・防火の神としての信仰と考えられます

文殊菩薩は諸仏の智慧をつかさどる仏です。釈迦如来の  
脇侍として左に侍し、普賢菩薩とともに三尊を形成してい  
ます。

福光の地藏堂裏地に、天明元年（一七八一）に造立され  
た“文殊祠”が祀られています。

「三人寄れば文殊の知恵」といわれるように、すばらし  
い考え、すぐれたよい知恵がひらめくようにとの信仰から、  
二百余年以前に建立されたものでしょう。